

羽 沢

令和3年1月6日
横浜市立羽沢小学校
学校長 田屋 多恵子

(E) 笑顔いっぱい (S) 健やかいっぱい (D) 大好き羽沢の人とまち

羽沢小学校ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hazawa/>



新年あけましておめでとうございます

—「魔法の箱」から育つ子どもの可能性と創造力—

校長 田屋 多恵子

新年の青空に遠く白い富士山がくっきりと見えます。清々しい気持ちになります。新しい年がスタートしました。羽沢小学校にとっては、創立50周年を終え、次の50年へのスタートの年になります。

また、菅田中学校ブロックにとっても、新しく開設される「菅田の丘小学校」と「羽沢小学校」の2校の小学校と「菅田中学校」の1中2小の連携が新たにスタートする年でもあります。

昨年12月には、横浜市のICT教育の推進施策であるGIGAスクール構想実現のための工事が入り、環境も整いつつあります。

新しいことへの挑戦を、わからないことがあるからと拒むことなく、よさを取り入れながら、もちろんアナログの大切さも見失うことなく羽沢小学校にあった形で進めていきたいと思えます。

羽沢小学校では様々な外部機関の力をお借りして教育活動を進めていますが、その中でもここ4年間「一般社団法人横浜すぱいす」様のお力をお借りしてプログラミング学習を6年生中心に取り入れてきました。

今年の6年生は、昨年5年生からプログラミングの学習経験を積み上げています。どの児童もiPadを使いながら、ロボットを操作し障害物を避け、思うようにコントロールしていました。細かく左右と教えていただくことなく自分で考え試しながら夢中になって取り組んでいました。ロボットを操作することが目的ではなく、この体験から、身近な問題の解決に主体的に取り組む態度やコンピューター等を上手に活用してよりよい社会を築いていこうとする態度を育むことが重要になってくると考えます。コンピューターをより適切に、効果的に活用することで、コンピューターが「魔法の箱」として、子どもたちの可能性を広げ、創造力を発揮できるようになれば素晴らしいなと期待しています。

通常であれば20人ほどの学生さんがグループに一人付いてくださって子どもたちと会話しながら進めてくださるのですが、今年度はこの状況ですので、全くのボランティアで3名の学生の方が来てくださいました。

志のある学生さんのお蔭で子どもたちがとてもよい学習経験ができましたことに感謝するとともにみなさんにお知らせいたします。

様々な制限のある中ではありますが、本年も教職員一同協力し、児童にとって魅力的な学校であるよう努力してまいりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。